



PreGuru 受信アプリ (Mac / Windows) インストール・操作マニュアル

受信アプリ (Mac / Windows) インストール・操作マニュアル — v1.0

PreGuru は、**Apple Watch / iPhone から、Mac や Windows PC のプレゼンをワイヤレスで操作 (スライド送り) **するためのアプリです。

このマニュアルは、PC 側で動かす「**受信アプリ (PreGuru)**」のインストールと使い方を説明します。

バージョン: v1.0 (正式リリース)

Mac 版は Apple の公証済み、Windows 版は Authenticode 署名済みです (正式版: Mac v1.1 / Windows v1.1.0)。

1. PreGuru でできること

- Apple Watch / iPhone の **ボタン**や、Apple Watch の **手首の動き (ジェスチャー)** で、PC 上の **Keynote / PowerPoint / PDF** などのスライドを「次へ/前へ」送れます。
- 仕組みは「PC 側の受信アプリが、最前面のプレゼンアプリに**矢印キー**を送る」だけなので、特定のプレゼンソフトに依存しません。
- 接続は**同じ Wi-Fi 上で自動検出 (Bonjour)**。ケーブル不要です。

Apple Watch (ジェスチャー / ボタン)

└ iPhone - (同じWi-Fi) → PC の PreGuru → 最前面のプレゼンを矢印キーで操作

2. 動作環境

	必要なもの
Mac	macOS 14.0 以降 (Apple Silicon / Intel)
Windows	Windows 10 / 11 (64bit)
スマホ/時計	iPhone (+必要に応じて Apple Watch) に「PreGuru」アプリ
ネットワーク	PC と iPhone が 同じ Wi-Fi に接続

3. インストール (Mac)

3-1. ダウンロード

PreGuru サイトのダウンロードページから **PreGuru-Receiver-1.1.dmg** をダウンロードします。

3-2. アプリケーションへ入れる

1. **PreGuru-Receiver-1.1.dmg** をダブルクリックして開く。
2. 表示された「PreGuru Receiver」を、右の「Applications」へドラッグ&ドロップ。

Mac 版は Apple の公証 (Notarization) 済みの正式リリースです。以前のベータ版で必要だったターミナルでの隔離属性の解除 (`xattr`) は不要になりました。そのままダブルクリックで起動できます。

3-4. 起動とアクセシビリティ許可 (必須)

1. 「アプリケーション」の **PreGuru** をダブルクリック。
- **メニューバー** (画面右上) に電波アイコンが出ます (ウィンドウは出ません)。
1. アイコンをクリックしてパネルを開き、「**アクセシビリティを許可…**」をクリック。
 2. システム設定の「プライバシーとセキュリティ → アクセシビリティ」で **PreGuru** を **ON**。
 3. パネルをいったん閉じて開き直すと、許可が反映されます。

アクセシビリティ許可は、**他アプリ (Keynote / PowerPoint 等)** へキー操作を送るために必須です。

3-5. ローカルネットワークの許可

初回に「ローカルネットワーク上のデバイスの検索」を尋ねられたら **許可**してください (iPhone との通信に必要)。

4. インストール (Windows)

Windows 版は **正式版 (v1.1.0)** です。Mac 版 (v1.1) と同じ機能で、.NET 8 を同梱した約 48MB のインストーラー (**PreGuru-Receiver-1.1.0-win-x64-setup.exe**) です。

4-1. ダウンロードとインストール

1. PreGuru サイトのダウンロードページから **インストーラー (.exe・約48MB)** をダウンロード。
2. ダブルクリックして、画面の指示どおりに進めます。**.NET のインストールは不要**です (必要なものは同梱されています)。
3. インストール後、**タスクトレイ**に PreGuru のアイコンが常駐します (ウィンドウは出ません)。

4-2. 初回起動時の許可

- Windows ファイアウォールの確認が出たら「アクセスを許可」（同じ Wi-Fi での通信に必要）。
- SmartScreen の警告が出た場合は、署名者が「transistors Co., Ltd.」であることを確認したうえで「詳細情報」→「実行」を選んでください。本インストーラーはトランジスターズ株式会社の Authenticode 証明書で署名済みですが、Windows 側の評価が蓄積するまでは警告が表示されることがあります。

Mac 版との違い：Windows 版の接続は **Wi-Fi のみ** です（USB 直結は Mac 版の機能）。

5. 使い方（Mac / Windows 共通）

5-1. 受信状態を確認する

- Mac：メニューバーのアイコン → パネルに「待受中: (PC 名)」と表示。
- Windows：タスクトレイのアイコンを右クリック → 「待受中: (PC 名)」と表示。

Mac：メニューバーの受信パネル（待受状態・接続端末数・ペアリング等）

Macの受信パネルのスクリーンショットをここに配置

Windows：タスクトレイの右クリックメニュー（待受状態・ペアリング等）

Windowsのタスクトレイ・メニューのスクリーンショットをここに配置

5-2. iPhone / Apple Watch から接続する

1. iPhone と PC を同じ **Wi-Fi**に接続。
2. iPhone の **PreGuru アプリ**を開く。同じネットワーク上の受信アプリを**自動検出**します。
3. 接続できると、iPhone の画面に「**Mac 接続済み: ○○**」 / 「**Windows 接続済み: ○○**」と表示されます。



iPhone のホーム画面。スライドクリッカーのカードに接続状態が表示され、「戻る／進む」で送れます

5-3. スライドを送る

1. PC で **Keynote / PowerPoint / PDF** を開き、**最前面**にします（スライドショー表示推奨）。
2. iPhone / Apple Watch の 「進む」「戻る」 ボタン、または Apple Watch の**手首の動き**でスライドが送られます。
3. 送られると、受信アプリのパネルに「最後の操作: → 次 / ← 前」と表示されます。

Mac の注意：受信パネルを開いたままでも送れますが、**プレゼンアプリが「最前面」かつ「操作中（アクティブ）」**である必要があります。

Windows の注意：プレゼンアプリを最前面にしておけば、トレイ常駐のまま送れます。

5-4. ペアリング（任意・他人の誤操作を防ぐ）

同じ Wi-Fi 上の他の端末から操作されたくない場合に使います（既定は OFF）。

1. 受信アプリのパネル／メニューで 「**ペアリングを要求**」を **ON**。
2. 表示される **4 桁のコード**を控える（「再生成」で作り直し可）。
3. iPhone 側の Mac/PC ページで、その **4 桁コード**を**入力**して接続。

→ コードが一致した端末だけが操作できます。



iPhone の接続設定。ペアリングコード（4桁）や Mac の IP アドレスをここで指定します

5-5. PC 起動時に自動で立ち上げる

- **Mac**：パネルの「ログイン時に起動」を ON。
- **Windows**：トレイメニューの「Windows スタート時に起動」を ON。

5-6. 閉じる・終了する

- **Mac**：パネル下部の「ウィンドウを閉じる」でパネルを閉じる（受信は継続）。
「アプリを終了する」→「終了しますか？ [終了] [Cancel]」で終了（受信停止）。
- **Windows**：トレイメニューの「アプリを終了する」で終了（受信停止）。

6. エアスワイプを確実に動かす（最初にお読みください）

手首の動きでスライドを送る「エアスワイプ」は、最初の準備で決まります。次の4つを済ませておけば、本番で迷うことはほとんどありません。

6-1. まず「校正」を行う（最重要）

Apple Watch の **設定** → **ジェスチャー設定** → **校正** を、**最初に一度だけ**実行してください。合図が出たら腕を振る、を3回繰り返すだけで、1分もかかりません。

- 校正は**すべての土台**です。これを飛ばすとしきい値が既定値のままで、あなたの振りの速さ・大きさと合いません。「振っても反応しない」「軽く動かしただけで送られる」の大半はこれが原因です。
- 校正さえ済ませれば、驚くほど素直に動きます。
- **⚠ 本番ですのと同じか、少し強めに。3回とも同じ強さで振ってください。** しきい値は**3回の平均**から決まります。遠慮して弱く振ると、その弱さが「送る」の基準になり、話しながらの何気ない手の動きでも送られてしまいます。逆に「見せるため」に極端に大きく振ると、本番の普通の振りが届かなくなります。**普段どおりが最良です。**
- 反応が渋い・敏感すぎると感じたとき、振り方が変わったと感じたときは、校正のやり直しが最短の解決策です。
- **★ 1回振ったら、画面をタッチして次へ進みます。** 振った拍子に画面が暗くなるとセンサーが止まり、その1回を測り終わられません。画面をタッチすると測定が完了し、次の合図に進みます。画面に「**画面をタッチ**」と出たら、軽く1回触ってください。

6-1a. 手首の振動が3つの合図を伝えます

Apple Watch の画面を見なくても、**手首の振動だけで「いま送れるか」が分かります。**形は3つだけです。

振動	意味	そのとき
上がる振動が2回	送れます	この合図のあとに振ってください
下がる振動が1回	まもなく眠ります	送るなら今のうちに
軽い1回のタップ	送れました	スライドが動いた合図

- **⚠ 「下がる振動」は禁止の合図ではありません。「送るなら今のうちに」です。** 実測では、この合図のあと本当に眠るのは**4回に1回程度**で、残りはそのまま送れます。手を止めるのではなく、送りたいなら早めに振ってください。
- しばらく眠っていたところから復帰したときは、「上がる振動が2回」の前に**強めの振動が1回**入ります。長く話したあとは合図を待っていないので、気づきやすくしてあります。
- 反応が無いと感じたら、**手首を時計を見る向きにひねって起こしてください。** 起きて準備ができると「上がる振動が2回」が鳴ります。
- 設定の「ジェスチャー確定の振動」をオフにすると**3つ目だけ**鳴らなくなります。**1つ目と2つ目はオフになりません。** 振ってよいかを知る唯一の手がかりだからです。

6-2. 起動の順番を守る

① PC の PreGuru (受信アプリ) → ② iPhone の PreGuru → ③ Apple Watch の PreGuru の順が確実です。

- スライド送りは Apple Watch → iPhone → 受信アプリ と伝わり、**iPhone が受信アプリを探して接続する側**だからです。受信アプリが先に待ち受けていれば、iPhone は開いた時点ですな

がります。

- 順番が前後しても iPhone が数秒ごとに探索をやり直して自動でつながりますが、**つながる前に振った分は届きません**（古い操作が後から勝手に送られないよう、あえて破棄しています）。使い始めに動きが不安定に感じるのは、多くの場合これです。
- ★ **本番直前に、iPhone の画面で「レシーバー接続済み」と出ていることを一度確認してから**ポケットに入れてください。

6-3. 文字盤に戻らないようにする

ここは誤解されやすいので、順番に整理します。Apple Watch には状態が**2つ**あり、**振りを拾えるかどうかが変わるのは片方だけ**です。

- **暗くなっただけ（常時表示の暗転）** … PreGuru は**動き続けています**。腕を下ろしたまま振っても送れます。実機の記録でも、45秒の居眠りをはさんだ直後の振りを拾えていました。
- **文字盤に戻った** … アプリが背景に回され、**検出は止まります**。この状態の振りは拾えません。

つまり対策すべきは「暗くなること」ではなく、「**文字盤に戻ること**」です。アプリ側から前面に留まる手段は watchOS には用意されていないため、本体設定で変えていただく必要があります。

■ まず、2つの使い方のどちらかを選びます

Apple Watch の制約で、「腕を下ろしたまま送る」と「**ダブルタップ**」は同時に使えません。

AssistiveTouch をオンにすると watchOS の「ジェスチャ」がオフになり、ダブルタップが使えなくなるためです。

	A：腕を下ろしたまま送る（おすすめ）	B：ダブルタップを使う
ジェスチャ	オフ	オン（手首フリックは必ずオフ）
AssistiveTouch	オン	オフ
手首を下げてスリープ	オフ	（切っても効きません）
できること	腕を下ろしたまま振れる。手首フリックの問題も起きない	ダブルタップで素早くオン・オフ
代償	ダブルタップ不可・電池の消耗が増える	腕を上げて画面が点くまで振れない

以下は **B を選んだ場合** の設定です。A を選んだ場合は「ジェスチャ」ごとオフになるため、手首フリックの設定は不要です。

■ Bの最優先：手首フリックをオフにする

Apple Watch の **設定 → ジェスチャ → 「手首フリック」をオフ**。

- ・手首を外側へクイッと返すと文字盤に戻る機能です。これはエアスワイプとほぼ同じ動きなので、振った瞬間に PreGuru から追い出されてしまいます。
- ・既定でオンです。そのままだと、振るたびに文字盤へ戻される可能性があります。
- ・⚠ 下の「時計に戻る」を1時間後にしても、この現象は直りません。手首フリックは「利用者が自分で文字盤に戻した」とみなされるためです。

■ 次に：腕を下ろしても眠らせない

iPhone の「Watch」アプリ → 「アクセシビリティ」 → 「AssistiveTouch」で、次の順に行います。

1. 「AssistiveTouch」を オン にする（これを先に）
2. 「手首を下げているときにスリープ」を オフ にする

⚠ 1 を飛ばさないでください。AssistiveTouch がオフのままだと、2 のスイッチは操作できるのに、まったく効きません。設定したつもりになりやすい箇所です（本書でも 2026年9月20日まで「AssistiveTouch はオフのままで構いません」と誤ってご案内していました。お詫びします）。

- ・腕を下ろすと、Apple Watch は**アプリごと止めます**。止まっているあいだの振りは1件も拾えません。記録には「アプリが 123 秒間止められていた」と残っていました。
- ・アプリ側からこれを防ぐ手段はありません。眠らせない設定だけが実効策です。
- ・画面上部の「ON」のしるしは、エアスワイプが働いているあいだ脈打ちます。脈が止まっていたら、そのときの振りは拾えていません。迷ったらここを見てください。
- ・⚠ 電池の消耗は早くなります。プレゼンの間だけオフにして、終わったら戻す使い分けをおすすめします。

■ あわせて：何もしないまま戻る時間を延ばす

Apple Watch の 設定 → 一般 → 時計に戻る → 「PreGuru」 → 「1時間後」。既定は「常に」で、腕を下ろすとすぐ文字盤に戻ってしまいます。ここを変えるだけで、腕を下ろしたままでも振りが届くようになります。

■ 手首を下げてでもスリープしないようにする（効果が大きい・電池と相談）

iPhone の「Watch」アプリ → 「マイウォッチ」 → 「アクセシビリティ」 → 「AssistiveTouch」で、①「AssistiveTouch」を オン にしてから ②「手首を下げているときにスリープ」を オフ にします。⚠ ①を先に行ってください。オフのままだと②は効きません。

- ・腕を下ろしてもスリープしなくなるため、下げたままでもジェスチャーを拾いやすくなります。
- ・⚠ そのぶん電池の消耗は早くなります。残量と相談して、プレゼンの間だけオフにし、終わったらオンに戻す、といった使い分けをおすすめします。

■ この設定を使わない場合（こちらだけでも実用上かなり改善します）

- ・Apple Watch の 設定 → 画面表示と明るさ → スリープ解除時間 → 「70秒」（既定は15秒）
- ・Apple Watch の 設定 → 一般 → 時計に戻る → 「PreGuru」 → 「1時間後」

- この2つを設定しておくで、一度腕を上げれば70秒は点いたままで、続けて送れます。腕を上げてから画面が点くまでのわずかな時間に振ると、その振りは無効になります。**画面が明るくなったのを確認してから振ってください。**

⚠ 「反応しない」と感じたとき、まず疑うべきは画面ではありません。上記のとおり、暗いだけなら振りは届いています。それでも送れないときは、**必要な振りの強さが上がっている**可能性の方が高いです。6-4 の「反応が鈍くなったときの戻し方」をご覧ください。

■ 「眠っていた」ことはアプリが教えます

暗いだけの状態と、Apple Watch がアプリを止めてしまった状態は別物です。**止まっていた間の振りは記録が残らず、拾えません。** アプリはこれを検知して知らせます。

- 腕を上げてアプリに戻ったとき、「**腕を下ろすと検出が止まります**」という案内と、**何秒止まっていたか**を表示します。出たときは、上の設定を見直してください。
- 止まっていた状態から復帰し、**ふたたび振りを拾える状態になった瞬間に、軽い振動が2回鳴ります。** この振動を感じてから振れば確実です。文字盤を見て確かめる必要はありません。
- 案内が不要な場合は、**設定 → ジェスチャー設定** の上部にある「**この案内を表示しない**」で止められます。橙色の警告表示だけは残ります。

6-3a. 腕を上げながら振ってかまいません

腕を下ろした状態から**上げながら、その流れで振ってください。** 上げきって静止するのを待つ必要はありません。文字盤を見る所作も不要です。

以前は、腕を持ち上げる勢いが残っているうちの振りを「腕を振り下ろしたときの弾みではないか」と判断して見送っていました。実機の記録で、**必要な速さの2倍以上ある明確な振りまで見送っていたことが分かった**ため、判定を緩めています。振り下ろしの誤作動は、面の向き（6-3b）で見分けています。

6-3b. 構え方（反応しないと感じたら、まずここ）

時計の面を自分に向けて、立て気味に構えてください。 Apple Watch の面が水平（天井を向いた状態）に近いと、しっかり振っても反応しません。

- これは「手のひらを下にして腕を振り下ろしたとき、手首がわずかに返っただけでスライドが送られる」誤発火を防ぐための判定です。安全のために外せません。
- 実際の記録でも、速度・振りの大きさ・軸の条件をすべて満たしていた振りが、**構えたときに面が水平だったという理由だけで**送られていませんでした。
- 反応しないと感じたら、力を入れて振るより先に**構えの角度**を見直してください。

6-4. リハーサルで、自分の振りに合わせて仕上げる

プレゼンと同じで、エアスワイプも**事前準備とリハーサル**で仕上がります。本番前に一度、通してリハーサルを行い、PreGuru をあなたの振り方に馴染ませてください。

1. まず **校正**（6-1）。土台です。

2. Apple Watch の設定で「誤発動を自動で学習する」をオンにします（既定はオフです。オンにしないと学習しません）。
3. **本番と同じ形でリハーサル**します。受信アプリにつないで、実際のスライドを送りながら通してください。 ※「練習モード」は反応だけを確認する画面で、**学習は行われません**。
4. 意図せずスライドが送られたら、**2.5秒以内に画面の「戻る」ボタン**を押して戻します。アプリが「今のは誤発動だった」と記録し、次からその紛らわしい動きに反応しにくくなります。振って戻した場合は学習しません（意図した操作と区別がつかないためです）。

数回繰り返すうちに、あなたの立ち方・手の動かし方・会場の状況に馴染んでいきます。

⚠ **やりすぎないでください**。1回の訂正ごとに約14%厳しくなるため、必要以上に繰り返すと今度は本来の振りにも反応しなくなります。数回で十分です。

反応が鈍くなったときの戻し方

Apple Watch の **設定** → **ジェスチャー** に、戻すためのボタンが2つあります。どちらも「反応が鈍い」ときのものですが、**原因が違います**。症状で選んでください。

- **校正をやり直しても、強く振らないと反応しない**
→ 「**振りの強さを標準に戻す**」を押します。校正で決まった振りの強さの基準が 出荷時に戻ります。そのあといつも通りの振りで校正をやり直してください。
- **訂正を重ねてから反応が鈍くなった**
→ 「**ジェスチャー学習をリセット**」を押します。学習状態が初期状態に戻ります（誤発動はまた出やすくなります）。リセット後は**校正もやり直してください**。

逆に**誤作動が多い**ときは、リセットではありません。「**戻る**」で訂正して学習させるのが正しい手順です。学習は訂正でしか進まず、リセットすると緩む側に戻るため、誤作動はかえって増えます。

7. こんなときは（トラブルシューティング）

iPhone が PC を見つけられない。でも IP 直接入力なら瞬時につながる

iPhone 側の自動探索（Bonjour）が一時的に詰まっています。**iPhone を再起動**すると直ります（実機で確認済み）。アプリの入れ直しは不要です。**Mac と Windows の両方が同時に見つからない**のが目印で、このときは受信アプリ側ではなく iPhone 側が原因です。急ぐときは IP 直接入力でそのまま進めてかまいません（確実さはこちらが上です）。

iPhone が PC を見つけられない／「未接続」のまま

- iPhone と PC が**同じ Wi-Fi**か確認。
- PC の**ファイアウォール**で PreGuru の通信が許可されているか確認。
- 受信アプリのパネルで「**接続をリセット**」を押す。
- iPhone 側で「**再接続**」を押す。

接続はできるのにスライドが進まない

- **Mac**：アクセシビリティ許可が ON か確認。プレゼンアプリが**最前面**か確認。

- **Windows**：プレゼンアプリが**最前面**か確認。
- 受信アプリのパネルに「最後の操作」が更新されているか確認（更新されていれば受信は成功＝プレゼン側の前面/フォーカスを確認）。

「ペアリングコード不一致」と出る

- 受信アプリ側に表示の 4 桁コードと、iPhone に入力したコードが一致しているか確認。
- 受信アプリで「再生成」して新しいコードを入力し直す。

Apple Watch の手振りが途中で効かなくなる

- ジェスチャー検出は **PreGuruの画面が表示されている間だけ** 動きます。文字盤や他のアプリに切り替わると止まります。
- Apple Watch本体の 「設定」→「一般」→「時計に戻す」→「PreGuru」を『1時間後』にしてください。腕を下ろしても最大1時間は画面がPreGuruのまま保たれます（この設定はApple Watch本体側の項目で、アプリからは変更できません）。
- プレゼン中は **iPhone アプリを前面**のままにする（中継役のため）。

Apple Watch の「ダブルタップ」でエアスワイプが切り替わらない

- アプリの 設定→ジェスチャー設定 の 「**ダブルタップで ON/OFF**」を **ON**、Apple Watch 本体の 設定→ジェスチャー→ダブルタップ も **ON** にします（Series 9・Ultra 2 以降）。
- **アプリを新しいバージョンに入れ替えた直後は効かないことがあります**。その場合は ①「**ダブルタップで ON/OFF**」を **OFF→ON** で再設定 → ②画面の **ON/OFF チップ**を指で**3回タップ**（1回・2回では変わりません）→ ③それでも効かなければ **Apple Watch を再起動**。多くの場合、**再起動で確実に有効**になります。

プレゼン中に Apple Watch が文字盤（時計）に戻ってしまう

- Apple Watch本体の 「設定」→「一般」→「時計に戻す」→「PreGuru」を『1時間後』にしてください。
- プレゼン中に実際に戻ってしまった場合は、アプリに復帰したときに手順の案内が表示されます。
- さらに確実に固定したいときは、Apple Watch 本体の 設定→一般→時計に戻す→PreGuru を「1時間後」にすると、腕を下ろしても最大 1 時間は画面が固定されます。
- **眠りを遅らせるコツ**：Apple Watch 本体の 設定→画面表示と明るさ→スリープ解除時間を「**70秒**」にしておくと、画面に触れてから 70 秒は起きたままで、その間はわずかな動きでもすぐ復帰します。登壇中に**文字盤を指で軽く1回タップ**すれば、そこからまた 70 秒になります。1回のタップでは表示は変わりません。
- **さらに眠りにくくする設定**：iPhone の「Watch」アプリ → アクセシビリティ → **AssistiveTouch** を**オン** → 「**手首を下げているときにスリープ**」を**オフ**。腕を下ろしても眠りにくくなります（電池は早く減るので、プレゼンの間だけがおすすめ）。それでも眠ることはあるので、合図が来たら文字盤を 1 回トン。

Apple Watch の大きい時間（経過／残り）が1回タップで切り替わらない

- 切り替えは**ダブルタップ**（時間の部分を素早く2回タップ）です。1回のタップは「起こすだけ」で、表示は変わりません（上の「眠りを遅らせるコツ」のため）。画面上部の ON/OFF チップは**3回タップ**です（時計の切り替え＝2回と区別し、見ずに触れて OFF になる事故を防ぐため）。スライド送りのボタンは従来どおり1回タップですが、高さを低くして見ずに触れたときの誤タップを減らしています。

iPhone で変えた時間・タイマー設定が Apple Watch に反映されない

- iPhone の設定で時間/タイマーを変えたら、その下の「**設定（Apple Watch へ反映）**」ボタンを押します。Apple Watch アプリを開いて押すと即反映、閉じていれば次に開いた時に反映されます。
- すでに Apple Watch 側で時間が進んでいる場合は、**Apple Watch 側で時間をリセット**すると新しい設定時間になります。
- ※「経過／残り」の大表示切替は iPhone と Apple Watch で**独立**（連動しません）。iPhone は経過・Apple Watch は残り、のように端末ごとに選べます。

Mac で「開発元を確認できない／壊れている」と出て開けない

- **v1.0（公証済み）では通常起きません**。出る場合は、古いベータ版が残っているか、ダウンロードが途中で壊れている可能性があります。`/Applications` の古い PreGuru を削除し、サイトから `PreGuru-Receiver-1.1.dmg` を取り直してください。

8. 補足・既知の制約

- 現在は**ベータ（署名・公証前）**のため、Mac は隔離属性の解除、Windows は SmartScreen 回避が必要です。

正式版では不要になります。

- Mac の受信アプリは**メニューバー常駐**（Dock には出ません）。Windows は**タスクトレイ常駐**です。
- ペ어링コードは簡易方式（同一 Wi-Fi 内）です。
- PC が管理者権限で動くプレゼンアプリ（Windows）には、権限差により送れない場合があります（通常起動なら問題ありません）。

提供元

トランジスターズ株式会社

<http://transistors.co.jp>

PreGuru 受信アプリ（Mac / Windows） — v1.0